

1. 施設情報の管理と活用

長寿命化を推進するにあたり、次の学校施設の状況や改修履歴、点検結果などのデータを十分に活用し、今後の改修内容や時期などを総合的に判断します。各データは、施設の実態を把握するため、適宜更新し適切に管理します。

- 公立学校施設台帳・・・・・・・・・・学校施設の基本情報
- 学校施設工事データ・・・・・・・・・・改修、修繕の履歴
- 定期・法定点検報告・・・・・・・・・・設備機器等の点検時の指摘事項
- 安全点検報告・・・・・・・・・・非構造部材耐震点検^{※7}、定期施設点検結果^{※8}
- 本基本方針における劣化状況調査結果・・・施設の劣化状況及び評価

2. 推進体制等の整備

学校施設の老朽化は進み、学校施設に求められる機能や水準も変わっていくことが考えられます。長寿命化を確実に推進するため、学校や教育委員会、関係各課と連携し、学校施設の状況を把握して必要な施設整備を行います。

3. フォローアップ

基本方針に基づき、効率的かつ効果的な学校施設整備を進めていくため、次のPDCAサイクルを確立することが重要です。

- ① 施設の状況を把握した上で、それを踏まえた改修計画を策定 <Plan>
- ② 計画に基づく日常的な維持管理や適切な改修を実施 <Do>
- ③ 改修による効果を検証し、整備手法の改善点などを整理 <Check>
- ④ 次期計画に反映 <Action>

また、基本方針では、学校施設の長寿命化を見据えた整備方針や基本的な考え方を示し、長寿命化の実施計画はアクションプランにおいて示されます。基本方針の内容は、事業の進捗状況や施設の老朽化の状況を踏まえ、第2期以降の各期間の中間年度に見直しを行います。

※7 「学校施設の非構造部材の耐震化ガイドブック」平成31年3月、文部科学省

※8 「建物維持管理マニュアル」平成29年5月、朝霞市財産管理課